『二十二史箚記』、広文書局、一九七二年。 『花史』、中華書局、一九七四年。 『隋書』、中華書局、一九七三年。 『宋書』、中華書局、一九七四年 『白虎通疏証』、中華書局、一九九四年。 『春秋繁露義証』、中華書局、一九九二年。 『大戴礼記解詁』、中華書局、一九八三年。 『尚書大伝定本』(『四部叢刊初編』所収)、(上海)商務印書館、 『十三経注疏附校勘記』、(台北)芸文印書館、一 『山海経校注』、巴蜀書社、一九九六年。『国語集解』、中華書局、二〇〇二年。 『十七史商権』、中華書局、一九八七年。 『南斉書』、中華書局、一九七二年。 『三国志』、中華書局、一九五九年。 『史記』、中華書局、一九八二年。 『経典釈文彙校』、中華書局、二〇〇六年。 『経学歴史』、(台北)芸文印書館、二〇〇〇年。 『儀礼経伝通解』(『朱子全書』所収)、上海古籍出版社、二〇〇二年 『宋鈔本洪範政鑒』書目文献出版社、一九九二年。 『新唐書』、中華書局、一九七五年。 "後漢書』(『百衲本廿四史』所収)、 "説文解字』、中華書局、一九六三年。 『釈名彙校』、斉魯書社、二〇〇六年。 『易緯 八種』、新興書局、一九六六年。 『易漢学』(『百部叢書集成』所収)、(台北)芸文印書館、 "周易集解纂疏』、広文書局、一九七一年。 ³魏書』、中華書局、一九七四年。 『重要文化財宋版漢書』、汲古書院、二○○七年。 礼書通故』、中華書局、二〇〇七年。 台湾商務印書館、 九八一年。 一九六七年。 一九六九年。 九 一九年。

> 『補上古考信録』(『百部叢書集成』所収)、(台北)芸文印書館、 『隷釈・隷続』、中華書局、一九八五年。 『天水放馬灘秦簡』、 『睡虎地秦墓竹簡』、文物出版社、一九九〇年。 『郭店楚墓竹簡』、文物出版社、一九九八年。 『楚帛書』、中華書局香港文局、一九八五年。 『文献通考』、(台北)商務印書館、一九八七年 『銀雀山漢墓竹簡』、文物出版社、一九八五年。 『九店楚簡』、中華書局、二〇〇〇年。 『偽書通考』、鼎文書局、一九七三年。 『四庫全書総目提要』、(上海)商務印書館、一九三三年。 『晏子春秋』、中国子学名著集成編印基金会、 通典』、中華書局、一九八八年。 中華書局、二〇〇九年。 一九七八年

『荀子集解』、中華書局、一九八八年。 "新書校注』、中華書局、二〇〇〇年。 九六六年。

『新序詳注』、中華書局、一九九七年。 『癸巳類稿』、(上海)商務印書館、一九五七年。 "十一家注孫子校理』、中華書局、一九九九年。 "説苑校証』、中華書局、一九八七年。

『管子校注』、中華書局、二〇〇四年。 "韓非子集解』、中華書局、一九九八年。

『五行大義』、広文書局、一九八七年。 『黄帝内経集注』、浙江古籍出版社、二〇〇二年。

『墨子間詁』、中華書局、二〇〇一年。 "呂氏春秋新校釈』、上海古籍出版社、二〇〇二年

淮南鴻烈集解』、中華書局、一九八九年。

『論衡校釈』、中華書局、一九九〇年。 『風俗通義校注』、中華書局、二〇一〇年。

一九七八年 (孔広陶校注本)。

『庸間斎筆記』、中華書局、

一九八九年。

『芸文類聚』上海古籍出版社、一 『初学記』中華書局、一九六二年。 一九九 九

『三才図会』、成文出版社、一九七〇年。

『古今図書集成』、中華書局、一九八五年。

·群書類従』、続群書類従完成会、一九六〇年。

"世説新語校箋』、宏業書局、一九七六年。

『文選』、(台北)芸文印書館、一九六七年。 『荘子集解・荘子集解内篇補正』、中華書局、一 九八七年。

"明文海』、中華書局、一九八七年。

『昭代叢書』、上海古籍出版社、一九九〇年。

『文心雕龍校証』、上海古籍出版社、 一九八〇年。

赤塚忠著、 研文社、一九八八年。 赤塚忠著作集刊行会編『中国古代文化史(赤塚忠著作集第一 巻)_

池田末利 池田知久『馬王堆漢帛書五行篇研究』、汲古書院、一 飯島忠夫『支那古代史論』、第一書房、一九二五 『中国古代宗教史研究――制度と思想』、 九九三年。

井上聰『古代中国陰陽五行の研究』、 八年。 翰林書房、一 九九六年。

版社、一九九七年。金谷治『管子の研究』、岩波書店、一九八七年。金谷治『管子の研究』、岩波書店、一九八七年。 (金谷治中国思想論集 上 |巻) 』、 平河 出

狩野直樹『読書纂余』、みすず書房、一九八○年。

鎌田正『左伝の成立と其の展開』、大修館書院、一九六三年。 鎌田重雄『秦漢政治制度の研究』、日本学術振興会、一九六二年

川原秀城『両漢天学考』、創文社、一九九六年。

久保田剛『時令説の基礎的研究』、溪水社、二〇〇〇年

栗原朋信『秦漢史の研究』、吉川弘文館、一九六〇年

島邦男『五行思想と礼記月令の研究』、汲古書院、一九七一年。 小林信明『中国上代陰陽五行思想の研究』、講談社、一九五一年。

能田忠亮『東洋天文学史論叢』、恒星社、 新城新蔵『東洋天文学史研究』、弘文堂、一九二八年。

> 福井重雅『漢代儒教の史的研究 能田忠亮・藪内清『漢書律暦志の研究』、臨川書店、一九七九年。 儒教の官学化をめぐる定説の再検

討

堀池信夫『漢魏思想史研究』、明治書院、一九八八年。 ─』、汲古書院、二○○五年。

間嶋潤一『鄭玄と『周礼』――周の太平国家の構想』、明治書院、二〇一〇

溝口雄三・丸山松幸・池田知久編『中国思想文化事典』、東京大学出版会、 松本雅明『詩経諸篇成立に関する研究』、東洋文庫、一九二八年。

二〇〇一年。

安居香山・中村璋八『緯書の基礎的研究』、国書刊行会、一九七六年。

安居香山『緯書の成立とその展開』、国書刊行会、一九七九年。

山田慶児『中国医学の起源』、岩波書店、一九九九年。 山田慶児『夜鳴く鳥』、岩波書店、一九九〇年。

吉川忠夫・冨谷至『漢書五行志』(東洋文庫 460)、平凡社、一 九八六年。

陳侃理『儒学、数術与政治-論文)、二〇一〇年。 中国古代災異政治文化研究』(北京大学博士

陳蘇鎮『《春秋》與"漢道":兩漢政治與政治文化研究』、中華書局、二〇一

東海大学出版会、

九九

川 『中国古代宗教与神話考』、上海文芸出版社、一 九八八年。

高亨『墨経校詮』、科学出版社、一九五八年。

郭沫若主編、中国社会科学院歴史研究所編、『甲骨文合集』 第五 集、 中華書

胡厚宣『甲骨学商史論叢』初集第二冊、斉魯大学国学研究所、 局、一九七九年。 九四 匹

黄人二『敦煌懸泉置《四時月令詔条》整理與研究』、 胡適『胡適全集』第七巻、安徽教育出版社、二〇〇三年。 武漢大学出版社、二〇

李零『中国方術続考』、東方出版社、二〇〇〇年。

李零『中国方術考』(修訂本)、東方出版社、二〇〇一年。

梁啓超『墨経校釈』(『無求備斎 墨子集成』七)成文出版社、 九七五年。

欒調甫「梁任公五行説之商権」、『古史辨』第五巻、上海古籍出版社、一 劉楽賢『睡虎地秦簡日書研究』、文津出版社、一九九四年。 九八

銭穆『墨子』、商務印書館、一九三〇年。 龐朴『帛書五行篇研究』、斉魯書社、一九八○年

孫作雲『詩経与周代社会研究』、中華書局、一九六六年。

呉毓江『墨子校注』、中華書局、一九九三年。

邢義田『治国安邦――法制・行政与軍事』、中華書局、二〇一一

徐興無『讖緯文献与漢代文化構建』、中華書局、二〇〇三年。

徐興無『劉向評伝』、南京大学出版社、二〇〇五年。

楊権『新五徳理論与両漢政治——「堯後火徳」説考論』、 中華書局、 100

楊向奎『西漢経学与政治』、独立出版社、二〇〇〇年

張西堂『尚書引論』、陝西人民出版、一九五八年。

鍾肇鵬『讖緯論略』遼寧教育出版社、一九九一年。

相原健右「『春秋繁露』偽書説に関する一考察」、『後漢経学研究会論集』第 二号、二〇〇五年。

池田秀三「鄭玄の六天説と両漢の礼学」、『両漢儒教の新研究』、汲古書院、池田秀三「劉向の学問と思想」、『東方学報』(京都)第五十冊、一九七八年。 二〇〇八年。

池田知久「郭店楚簡『五行』の研究」、『郭店楚簡儒教研究』、 汲古書院、二

池田知久・近藤浩之・李承律「序文」、『郭店楚簡儒教研究』、 汲古書院、二

池田雅典「欧陽尚書の六宗について」、『両漢における詩と三伝』、汲古書院、 〇〇三年。

井ノ口哲也「後漢時代における五経と讖緯」、『後漢経学研究会論集』創刊号、 二〇〇七年。 二〇〇二年。

石合香「秦漢期の受命改制― 新視点』、五曜書房、二〇〇三年。 -五徳終始説と三正説による検討」、『東方学の

岩本憲司「相勝から相生へ― 公式——」、『跡見学園女子大学国文科報』第二十五号、一九九七年。 —両漢に於ける五徳終始説の變遷に關する一般

工藤元男「睡虎地秦簡「日書」における病因論と鬼神の関係について」、『東 不村英一「五行思想の成立と其背景」、『支那学』第十号第一巻、一九四〇年。 方学』第八十八**輯**、 一九九四年。

> 古藤友子「四時食宜・食禁をめぐる議論と五行説――四季と五味・五行のつ古賀登「易説卦伝の帝について」、『東方学論集』、東方学会、一九九七年。 久野昇一「前漢末に漢火徳説の称へられたる理由に就いて」(上・下)、『東 学研究所、二〇一一年。 ながり」、武田時昌編『陰陽五行のサイエンス 思想編』、京都大学人文科 洋学報』第二十五巻第一号・第四号、一九五〇 - 一九五一年。

坂本具償「『漢書』五行志の災異説― 『日本中国学会報』第四十集、一九八八年。 董仲舒説と劉向説の資料分析-

渋谷由紀「郭店楚簡《五行》と『孟子』に見られる「道」の思想について」、

『後漢経学研究会論集』第二号、二〇〇五年。

高田淳「墨経の思想――経下・経説下について――」、『東京女子大学論集』 末永高康「『孟子』と『五行』」、『中国思想研究』第三十四号、二〇一三年。 十五巻一号、一九六四年。

武田時昌「五音と五行」、『陰陽五行のサイエンス 学研究所、二〇一一年。 思想編』、 京都大学人文科

洋学』第二十四号、一九七〇年。田中麻紗巳「劉向の災異説について―― 前漢災異思想の一面――」、『集刊東

藤堂明保「鄭玄研究」、『儀礼士昏疏』汲古書院、一九八六年。 田中良明「『漢書』天文志と『洪範伝』」、『東洋文化』第百五号、二〇一〇年。

野村茂夫「前漢「尚書の学」試探」、『愛知教育大学研究報告(人文・社会科 学)』第二十七輯、一九七八年。

馬場理恵子「「時」の法令――前漢月令攷――」『史窗』六十四号、二〇〇七 野村茂夫「洪範再論」、『中国哲学』第二十五号、一九九六年。

林克「『黄帝内経』における陰陽説から陰陽五行説への変容」、『大東文化大 浜久雄「『尚書大伝』考」、『東洋研究』一一三、一九九九年。 学漢学会誌』第三十号、一九九一年。

林克「陰陽五行小識」、『人文科学』第三号、一九九八年。

松本雅明「尚書洪範篇の成立」、『世界史研究』第二十六号、一九六〇年。 目黒杏子「前漢武帝期における郊祀体制の成立 -」、『史林』八十六巻六号、二〇〇三年。 -甘泉泰畤の分析を中心に

森和「子弾庫楚帛書における五行説と宗教的職能者」、『史観』第百五十七冊、 二〇〇七年。

所、一九八七年。吉川忠夫「鄭玄の学塾」、『中国貴族制社会の研究』、京都大学人文科学研究

離について――」、『人文科学』第七号、二〇〇二年。和田恭人「『漢書』五行志中の劉向説について――『洪範五行伝論』との乖

―」、『大東文化大学中国学論集』第二十号、二〇〇三年。和田恭人「『漢書』五行志に見える災異説の再検討――董仲舒説について―

大学出版会、一九六七年。 大学出版会、一九六七年。 渡辺卓「墨子思想」、『墨家・法家・論理思想(講座東洋思想第四巻)』、東京

陳侃理「従陰陽書到明堂礼」、『中華文史論叢』第九十七期、二〇一〇年。陳独秀「敬告青年」、『青年雑誌』第一巻第一号、一九一五年。

〒。 黄啓書「試論劉向災異学説之転変」、『台大中文学報』第二十六期、二○○七萌鉄珠「《夏小正》星象年代研究」、『自然科学史研究』二○○○年三期。

七期、二〇〇七年。 黄啓書「試論劉向、劉歆《洪範五行伝論》之異同」、『台大中文学報』第二十

二年。梁啓超「陰陽五行説之来歴」、『古史辨』第五冊下、上海古籍出版社、一九八梁啓超「陰陽五行説之来歴」、『古史辨』第五冊下、上海古籍出版社、一九八字。廖名春「〈説卦〉新証」、『中国文哲研究通訊』第六巻第三期、一九九六年。

- 八四年。 呂宗力「緯書與西漢今文學説」、『讖緯思想の綜合的研究』 国書刊行会、一九

一期、一九三〇年。 《南京中国史学会編》『史学雑誌』第二巻第一期、一九三〇年。

應朴「陰陽五行探源」、 『中国社会科学』 一九八四年第三期

饒宗頤「秦簡中的五行説与納音説」、『新亜書院学術年刊』第十四期、一九斉思和「五行説之起源」、『師大月刊』第二十二期、一九三五年。

w.。 童書業「五行説起源的討論」、『古史辨』第五冊、上海古籍出版社、一九八二

業公司、一九八一年。 王孝廉「夢与真実——古代的神話」、邢義田主編『永恒的巨流』、聯経出版事

四期、一九七二年。 徐復観「呂氏春秋及其対漢代学術与政治的影響」、『新亜書院学術年刊』第十

· F.。 徐文珊「儒家和五行的関係」、『古史辨』第五冊、上海古籍出版社、一九八二

鄭万耕「《序卦》晚于《説卦》的一个例証」、『中国哲学史』二〇〇六年四期